

図の上部には、次の口上と句がある。

御名残口上 尾上菊五郎
差添口上 市川團十郎

團

御町中様益御機嫌よう入らせられ
恐悦至極に存上奉りまする随ひ
まして尾上菊五郎儀にござりまする
兼々心願にござりまして筑前
太宰府天満宮へ参詣仕度むね
私へも毎度相談仕り既に去秋
存立ましたるを当芝居無人には
有て且御鬮頂御連中様
并に惣座中私迄たつて相頼み
当年まで相勤くれ候やう
差留罷在ましたる処則
当秋までの心願且約束の
事ゆゑ是非なく罷登りまするに付
御高恩の御礼御名残として仮名手本
忠臣蔵相勤まする役割御耳に触まする
早野勘平 本蔵女房となせ
大星由良之介 右三役相勤め
入御覧に奉りまする

菊

残暑の御いとひもなく賑くしく
御尊顔を拝し奉り大慶至極に
奉存上まする付まして只今團十郎
申上まする通り年来の心願に
より太宰府天満宮へ参詣
仕りまするに付み

じゆく不調

法なる右三役相勤御覧に入れ
奉りまする只御取立御馴染の
私にござりますれば元祖菊五郎の
俤ばかりとも思召御見物の程偏に
希ひ奉りまする程なく早速立
帰り御きげんを伺ひ奉りまする

まづは尽ぬ御名残口上 菊團すみから

すみまでさやうに御聞すみ

希ひ奉りまする

扇はや来年

まての名残かな 三代目

梅幸